

～生活の舞台～ 第11回目 すべり台

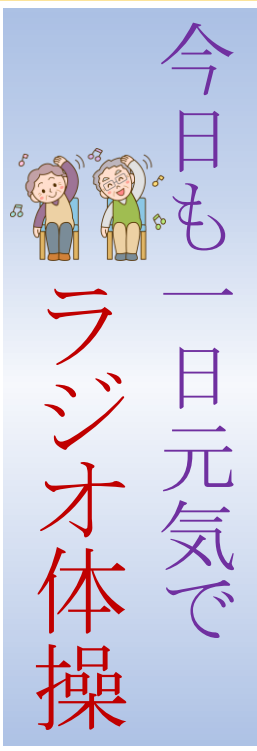
当苑の建物裏、玄関とは真反対の場所に、長い「すべり台」が設置されております。普段、面会等でよく見えらるご家族様でさえも、目にしたことは無いと思います。

もちろんこれは言うまでもなく「緊急避難用」のすべり台です。当苑は2階建てで、その2階が利用者様の入居フロアになっており、万が一の災害時には、このすべり台が大変重要な避難経路となります。またベランダが建物をグルッと囲む形で繋がっており、もし建物内部が通行不能な場合でも、ベランダを伝ってバルコニー端のすべり台へと直接アクセスが可能となっております。

定期的な防災・避難訓練は当然ながら、ハード面に於いても、もしもの有事の際に「**命を守る行動**」を迅速・的確にとる為の抜かりは、一切有りません。



当苑では毎朝、ラジオ体操を実施しています!!



毎日の健康は、朝の体操から!!

8月

お誕生日おめでとうございます。



今月の予定 (9月)

石橋胃腸内科医院 回診 (毎月曜日)

7日、14日、28日

ますゆき皮膚科クリニック 回診

3日(木)

小倉南歯科医院 回診 (毎火・木曜日)

1日、3日、8日、10日、15日、17日、24日、29日

ビューティヘルパー (訪問理美容)

8日(火)

敬老会

21日(月)

ふたばよもやま話 (第四十三回)

～小倉の名君 細川幽斎～

小倉南区の桜橋付近に次のように記された説明板があります。

「豊国 (とよくに) の嵐の山の麓川 (ふもとかわ) 岩越す波は桜なりけり」

この歌は小倉藩の初代藩主である細川忠興の父・細川幽斎がこの地に遊んだ時の歌と言われています。ここ桜橋周辺が京都の嵐山に似ているということからこの地を気に入り、その背後に聳える山も「小嵐山」と呼ばれるようになりました。近くにあるモノレールの「徳力嵐山口」駅の名前の由来でもあります。

安土桃山時代には足利氏、のちに信長、秀吉、家康といった時の有力者に仕えてきた細川幽斎は、知勇兼備の武将として有名です。「当代随一の教養人」といわれた幽斎は、京都嵐山の桜を取り寄せこの小嵐山を中心とした一帯に植えさせたと言われています。

幽斎の嫡男・忠興の妻は戦国三大美女のひとりとして名を馳せたガラシャです。小倉藩の殿様として後世名高い「小笠原侯」以前の「細川侯」時代はなかなか興味深い歴史があります。そして幽斎は現在の小倉の繁栄の基を築いた、まさに名君なのです。

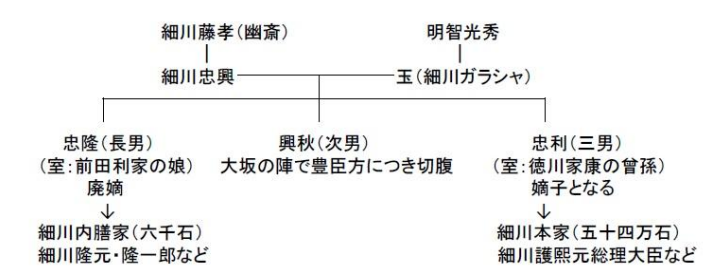


幼い頃は万吉、熊千代。元服して、藤孝を名乗り、後に長岡に改姓している。
雅号の幽斎が有名で、藤孝は天正元年十月に長岡に改姓、天正十年から幽斎を名乗っており、細川姓に復したのは藤孝没後の忠興の代といわれている。

桜橋の近く、香春街道にある小嵐山の説明板。小倉は、細川父子の影響で、地名や食文化、祭りなど京都との共通点が多い。



細川父子系図略図



【編集雑記】▼北九州の地は、九州の喉元にあたり、朝鮮半島や大陸とも至近の距離にある。その重要地故、卑弥呼がいたとされる時代から、近代・現代に至るまで、様々な歴史が刻まれ、日本史にも大きな影響を与えてきた▼血生臭い戦国時代も終わり、時の権力者は小倉の地を有力な武将に治めさせた。のちの小笠原氏も文武両道に優れた名君であったが、戦国時代、武士としても一流で教養もあつた細川父子は、まさに名君であつた▼忠興は、生まれ育つた京都を手本に基盤に町割りを行い、京町、大坂町(現在の鍛冶町の一部)、室町などの地名も付けさせた。夏の風物詩である小倉祇園太鼓は京文化の典型で、現在の文化と祭りの原型である▼忠興が、愛宕山(現小倉北区菜園場)に鷹狩りに出た折、山頂に石祠を見つつけ、中を見ようと石扉をこじ開けようとしたとき、中から飛び出した一羽の鷹が忠興の眼球を蹴り、危うく失明しそうになった。幸い回復、家臣に命じ調べさせたところ、その祠は京都の祇園社と同じ須佐之男命を祀る祠とわかり、城内に社殿をつくらせた。これが八坂神社の起源といわれている▼忠興と言えは、妻の玉(ガラシャ)が有名だが、明智光秀の三女であるガラシャは、残念ながら小倉の地とは縁が薄い。しかしガラシャのことが大好きだった忠興は、ガラシャの死後、追悼のミサを小倉で行つた。また日本三大修験道の霊場として有名な英彦山に奉幣殿を寄進しているがその建築物にガラシャへの追悼の想いが込められているのではないだろうか?と推測している学者もいる▼小倉の地には、数多の歴史と共に、数多の謎があるのである。